

異質のリスク-ベネフィット状況におけるリスクテイキング

橋本 采栄

日常生活では、時間と金銭を天秤にかけて判断することが多い。例えば、遊園地のファストパスは追加料金を払うことにより待ち時間を省略できるシステムであり、高速道路も料金を払うことで信号待ちや交差点での右左折待ち等を省略できるシステムである。しかしながら、時間と金銭という異質のものの比較が心理的に日常生活で頻繁に行われる一方で、単位が異なるので物理量によってどちらが良いかを判断することはできない。先行研究では、同質のリスク-ベネフィット状況でのリスクテイキング (risk taking) を比較していた。リスクテイキングとは、損失・損害の可能性を受容したうえで利得を求める行為である。しかし、異質のリスク-ベネフィット状況 (例えば、金銭リスク-時間ベネフィット) での比較はなされておらず、また金銭と時間の同価値の設定方法が個人のステータスや主観を無視しているという課題があった。したがって、本研究では、異質のリスク-ベネフィット状況におけるリスクテイキングについて、一定時間と心理的に同価値であると個人が感じる金額を設定したうえで比較した。また、物理量で客観的な判断ができない異質のリスク-ベネフィット状況において、主観的な要素として、個人の金銭や時間に対する価値の置き方が及ぼす影響も同時に検討した。

実験1では、ベネフィットを時間的なものに固定し、リスク-ベネフィットが同質 (時間-時間) の場合と、異質 (金銭-時間) の場合でリスクテイキングの発生を比較した。実験の結果、金銭を払ってでも時間を省略したい時間重視の人は、金銭重視の人よりも、時間がリスクとしてある場合にリスクテイキングしやすいことが分かった。また、時間重視の人は金銭リスクがある場合よりも時間リスクがある場合によりリスクテイキングしやすいことも分かった。

実験2では、ベネフィットを金銭的なものに固定し、リスク-ベネフィットが同質 (金銭-金銭) の場合と、異質 (時間-金銭) の場合でリスクテイキングの違いを比較した。その結果、部分的に実験1と同様の傾向が見られ、時間重視の人は、金銭重視の人よりも、時間のリスクがある場合にリスクテイキングしていた可能性があった。また金銭重視の人はリスクもベネフィットも金銭であった場合の方が時間がリスクであった場合よりもリスクテイキングをしていた可能性が示された。

以上より、たとえ一定時間とそれに相当する金額を比較して判断・行動する場合でも、個々人の金銭、時間への価値の置き方によって、それぞれに異なる重みづけがなされて行動に反映される可能性が示された。これまで同質間の比較研究の多い中で、異質のリスク-ベネフィット状況におけるリスクテイキングとその要因について検討した点に、本研究の意義がある。しかし、ベネフィットの質が変化しても、群間でリスクテイキング傾向が一貫するという現象も確認された。以上の現象の要因を解明するためにも、価値の置き方に影響を及ぼしうる認知および性格特性との関連を検証すべきであろう。また、検証できた場面は限定的であり、運転状況などの他の場面でのどのような変化が生じるかについて検討し、応用的な研究へと展開していきたい。(安全行動学)